

2014 年度 小委員会活動成果報告

(2015 年 1 月 28 日作成)

小委員会名	地盤震動小委員会		主 査 名：久田嘉章 就任年月：2013 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	構造委員会 (振動運営委員会)		委員長名：緑川光正 主 査 名：宮本裕司
設 置 期 間	2013 年 4 月 ～ 2015 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>震源から表層地盤までの強震動・地盤震動に関連する国内外の最新の研究動向、予測地震動の作成と実務に供する際に発生する様々な課題を整理し、シンポジウムと出版物を通じてその成果を公表する。</p> <p>2013年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第33回地盤震動地域交流会を開催 (北海道大学、2014.8.31) ・ 第41回地盤震動シンポジウム「2011年東北地方太平洋沖地震からわかった新たな知見と予測地震動への反映 -巨大地震に備えるための地盤震動研究(その3)」を開催 (2013.11.26) <p>2014年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2014年度大会PDを地盤基礎系振動小委員会と共同企画・実施 (神戸大学、2014.9.13) ・ 第34回地盤震動地域交流会を開催 (神戸大学、2014.9.13) ・ 第42回地盤震動シンポジウムを開催 (2014.11.18) ・ 刊行物「基礎から学ぶ地盤震動」を出版 (現在、2015年度刊行に向け査読中) 		
委員構成 (委員名 (所属))	<p>委員公募の有無：無</p> <p>主査：久田嘉章 (工学院大学) 幹事：永野正行 (東京理科大学)・川辺秀憲 (京都大学) 委員：関口徹 (千葉大学)・上林宏敏 (京都大学)・小山信 (建築研究所)・高橋広人 (応用地質)・藤本一雄 (千葉科学大学)・関口春子 (京都大学)・松島信一 (京都大学)・高井伸雄 (北海道大学)・森川信之 (防災科学技術研究所)・大野晋 (東北大学)・神野達夫 (九州大学)・境有紀 (筑波大学)</p>		
設置 WG (WG 名：目的)	<p>地盤震動シンポジウム企画WG：シンポジウムの企画・調整</p> <p>強震波形作成と利活用WG：強震波形作成と利活用に関する研究・調査、刊行物の編集</p>		
2014 年度予算	520,000 円	<p>ホームページ公開の有無：有</p> <p>委員会 HP アドレス：http://news-sv.aij.or.jp/kouzou/s4/</p>	

項 目	自己評価
委員会開催数	5 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) * 能力開発支援事業委員会 承認企画	<p>1. 第34回地盤震動地域交流会 (2014) 参加者数 85名</p> <p>2. 第42回地盤震動シンポジウム「東北地方太平洋沖地震後の想定巨大地震と予測地震動を考える -巨大地震に備えるための地盤震動研究(その4)」 『同名資料』 参加者数 137名</p>
大会研究集会	<p>1. PD：大地震における地盤-基礎-建物系の応答評価の現状と課題 -兵庫県南部地震から20年を迎えるにあたって (地盤基礎系振動小委員会と共同) 『構造部門(振動)パネルディスカッション資料：同上』 参加者数 367名</p>
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	<p>1. 予定通り、地域交流会、地盤震動シンポジウムを開催した。</p> <p>2. 予定通り、2014年度大会PDを地盤基礎系振動小委員会と共同で企画・実施した。</p> <p>3. 刊行物は、想定以上に査読・修正に時間がかかり次年度に出版延期となった。</p>
委員会活動の問題点 ・課題	<p>1. 伝統ある委員会であり、多くの成果を蓄積しているが、今後は期間内での委員会の目的と委員の役割を定める必要がある。</p> <p>2. 活動を活性化するために、若手委員を育てる必要がある。</p>